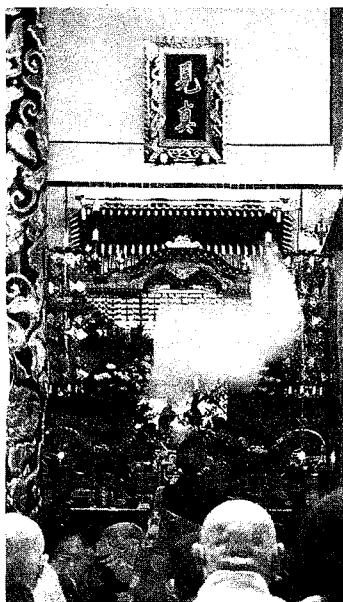


浄土真宗大谷本願寺派

「見真額」を除幕 報恩講

本山東本願寺（京都市伏見区）の御正忌報恩講（現真宗大谷派真宗本願寺復興）が11月27、28日、同市山科区の東山淨苑東本願寺の本堂である嘉枝堂で営まれた。28日の御日中法要では明治天皇が宗祖親鸞聖人に宣下した大師号「見真」の額の除幕式があつた。



同本山は1996年に
廟（同市下京区）の寺基
を東山淨苑がある京都六
条山に移した後、99年に
宗教法人の認証を得た。
「見真額」の制作は東本
願寺復興（宗教法人認
証）20周年を記念して発
行され、嘉枝堂正面右の祖
師前上部に掲出。除幕
式は御日中法要の儀式中に
組み込む作法で、暢順法
主が除幕すると、出席者と参拝者
が「弥栄」を三唱した。写真。
同法主は、復興親教に立つた
20周年の喜びと

願され、昨年から寄進の
呼び掛けなどに取り組ん
できた。

見真額は縦85センチ、幅53
センチで、嘉枝堂正面右の祖
師前上部に掲出。除幕式は御日中法要では東本願
寺独自の声明である坂東
曲を、出席者の間隔保持
やマウスガード着用など
のコロナ対策を講じた上
で例年通り勤めた。

東本願寺別院が設置す
る仏教学院・宗学堂で学
んだ在家得度者が出席す
るのが特徴の一つで、今
年は約60人が1ヶ月以上
の習礼に励んだ上で初の
「大舞台」に臨んだ。